

旧長崎内外クラブ特集号



旧長崎内外クラブとは... 各室にマントルピース、南側にベランダを持つ本格的な英国式明治洋風建築です。明治36年(1903)に出島場内の現在の位置に建築され、今年(2024)で築121年を迎えます。

出島かわら版

長崎市文化観光部
出島復元整備室
令和6年発行

かわら版... 江戸時代、時事に関する速報を伝えた印刷物のこと。出島から最新情報をお届けします。

「長崎内外倶楽部」出島設置に関わった明治長崎の名士



フレデリック・リンガー (1838~1907)

中国で茶葉検査官を務めていたことから、グラバー商会に招かれ、長崎で茶の取引を管理しました。その後、ホーム・リンガー商会を設立しグラバー商会の事業を引き継いだほか、西洋の技術を日本に紹介する手助けをし、長崎経済に大きな影響を与えました。

倉場 富三郎 (1870~1945)

トーマス・B・グラバーの息子。アメリカの大学への留学を経て帰国した後、ホーム・リンガー商会に入社し長崎の社交界で活躍します。日本に初めてトロール船を導入し、漁業業界に革命を起こしたことや、「グラバー魚譜」の編集など様々な功績を残しました。



倉場富三郎肖像写真
グラバー園蔵

グラバー園では彼らが住んでいた住宅を見学できます

◆現在は1階をレストラン、2階を展示室として公開しています！

国際交流の場を求めて

万延元年(1860)第一次居留地造成以来、多数の諸外国人の渡来によって居留地社会が形成されており、居留地内の外国人間の親睦を図るため、南山手(大浦町31番地)に慶応3年(1867)建築の「長崎クラブ」がありました。

一方で、日本人と外国人の親交の場が無かったため、明治32年(1899)条約改正

により居留地制度が撤廃された際、倉場富三郎、横山寅一郎、荏田平五郎等の発起により国内外の人々の社交のため「長崎内外倶楽部」が設立されます。当初は西浜町長崎米穀取引所の隣接建物を利用して運営されていましたが、明治36年(1903)、フレデリック・リンガーによって出島町7番地(現在の位置)に新築移転されました。バーやビリヤード場、図書室などが設置されたこの場所は、明治、大正、昭和の3代にわたって華やかな運営がなされました。

その後の旧長崎内外クラブ

戦後に連合軍に接収されましたが、その後昭和26年(1951)にリンガー家に返還されます。返還後は民間人の手に移り、倉庫として使用されてきました。

昭和43年(1968)に長崎市がこの建物を買収し、再生を図るために全面修復を実施。昭和49年(1974)から長崎市立出島資料館として公開されました。

出島耳より情報

複製屏風のおひろめ

オランダで発見・修復された「川原慶賀筆屏風」長崎湾の出島の風景」の複製を制作。完成した複製屏風を企画展「シーボルトと川原慶賀」等にて公開しました。

今後複製屏風は、年1回程度を目安に出島場内展示室にて一般公開を行う予定です。



川原慶賀筆屏風『長崎湾の出島の風景』(複製)

オランダ国旗掲揚日

- 日本とオランダの祝祭日
- 日本の休日
- 出島関連のイベント開催日など



鈴木市長、シーボルトの子孫や駐日オランダ王国大使館の関係者らがオランダ国旗を掲揚

シーボルトが出島にいた当時、出島の西側には高さ約30m、帆船のマストのような構造の巨大な旗竿が建てられ、オランダ国旗が翻っていました。

旗竿が完成！

シーボルト来日200周年を記念し、江戸時代に旗竿があったと推定される場内西側に旗竿を設置しました。地下に残る遺跡や石垣を守るため、高さは往時の約半分の12m、現代的な国旗掲揚台です。

昨年、令和5年は出島オランダ商館医フィリップ・フランチ・フォン・シーボルトが初めて長崎にやってきて200年の節目の年でした。記念事業の一部をご紹介します！

EVENT INFORMATION

令和6年度 企画展情報

◎最新情報は出島公式HPをご確認ください。

春季 新収蔵品展

令和5年度に新たに収蔵した資料を、関連資料とともにご紹介します。



▲左から色絵花卉文手付き長皿、硝器製洋酒瓶、ヘンドリック・ダイクマン衣装

夏季 舶来染織にあこがれて

出島に入ってきた輸入品を通して、江戸時代の服飾文化やおしゃれ事情をご紹介します。



▲五紅毛本方井品代端物切本帳

秋季 長崎内外倶楽部

昨年築120年を迎えた旧長崎内外クラブ。建物の歴史や、関係人物に焦点をあてた展示を実施します。



長崎内外クラブ会則

Glover Garden 50th Anniversary



グラバー園 開園50周年

2024年(令和6)、開園50周年を迎えます

グラバー園は、1974年(昭和49)9月4日に、グラバー邸から名称を改め長崎を代表する観光施設として開園しました。南山手の丘に現存する世界遺産「旧グラバー住宅」をはじめとする洋館9棟が、旧外国人居留地の面影を今に伝えています。これまでたくさんの皆様にご来園いただいた思い出の地で、再び大切な時をお過ごしください。



グラバー園
〒850-0931 長崎県長崎市南山手町8番1号
TEL | 095-822-8223 | FAX | 095-823-3359
Mail | nagasaki@glover-garden.jp
URL | https://glover-garden.jp/



公式WEBサイト

建物の改修工事を進めています

老朽化した建物の改修や長寿命化を行い、来場者の皆様に安全に出島を見学いただくため、出島では令和2年度から、建物の改修工事を行っています。

工事期間中は下記の建物に入れない期間が発生します。ご注意ください。

改修工事は例年10月~2月頃を実施しています

令和6年度主な改修工事箇所

- 旧長崎内外クラブ
- 拝礼筆者蘭人部屋
- 水門



改修工事

旧長崎内外クラブの歴史

安政6(1859)年 出島和蘭商館閉鎖

慶応2(1866)年 出島が外国人居留地に編入される

慶応3(1867)年 出島の南側に遊歩場を整備(南側埋築)

出島の南側に遊歩場を整備(南側埋築)

明治18(1885)年 長崎港湾改良工事(明治37年)により旧出島橋が取り壊される

長崎港湾改良工事開始により旧出島橋が取り壊される

明治32(1899)年 外国人居留地閉鎖

「長崎内外倶楽部」の発起会開催

「精洋亭」(西浜町)で初会合開催

明治20年代後半の出島の様子



▲「梅香崎洋館群と出島(3)」(部分)長崎大学図書館蔵

明治36(1903)年 「長崎内外倶楽部」出島町7番に移転新築
— 明治・大正・昭和 3代にわたって運営 —

昭和17(1942)年 「長崎内外倶楽部」閉鎖

昭和18(1943)年 社団法人「長崎内外倶楽部」に改組

昭和20(1945)年 長崎に原爆が投下される

昭和26(1951)年 「長崎内外倶楽部」の建物が戦後に接収される
リンガー家に返還。その後は民間の手に渡り倉庫として使用

昭和43(1968)年 「長崎内外倶楽部」の建物を長崎市が買収

昭和48(1973)年 全面修復

昭和49(1974)年 「出島資料館」開館

※(昭和50・59年)資料館内に長崎市立博物館設置

「出島資料館」開館

※資料館内に長崎市立博物館設置(昭和50・59年)

平成8(1996)年 保存修理工事(平成12年)

保存修理工事(平成12年)

平成12(2000)年 出島復元建造物5棟オープン

「旧長崎内外クラブ」として公開

令和5(2023)年 築120周年

現在「旧長崎内外クラブ」として公開

一部骨組みを残して解体する「半解体修理」を行いました



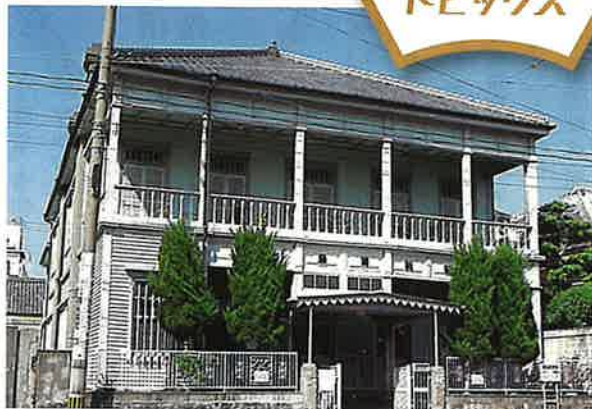
▲保存修理工事写真



▲昭和50年中央道路から撮影

TOPICS

トピックス



▲「出島資料館」パンフレット表紙の当時の旧長崎内外クラブ

水色だった!? かつての外観

かつて旧長崎内外クラブが「出島資料館」として公開されていた頃は、場内東側に建っている旧出島神学校とそっくりな、さわやかな水色の外観をしていました。

平成8年から行われた保存修理工事の際の調査で、当初塗られていたペンキが現れました。建築時の外観に復元することになり、現在のクリーム色と鶯色2色の旧長崎内外クラブになりました。



▲保存修理工事調査写真
表面の水色のペンキを削った様子



トピックス

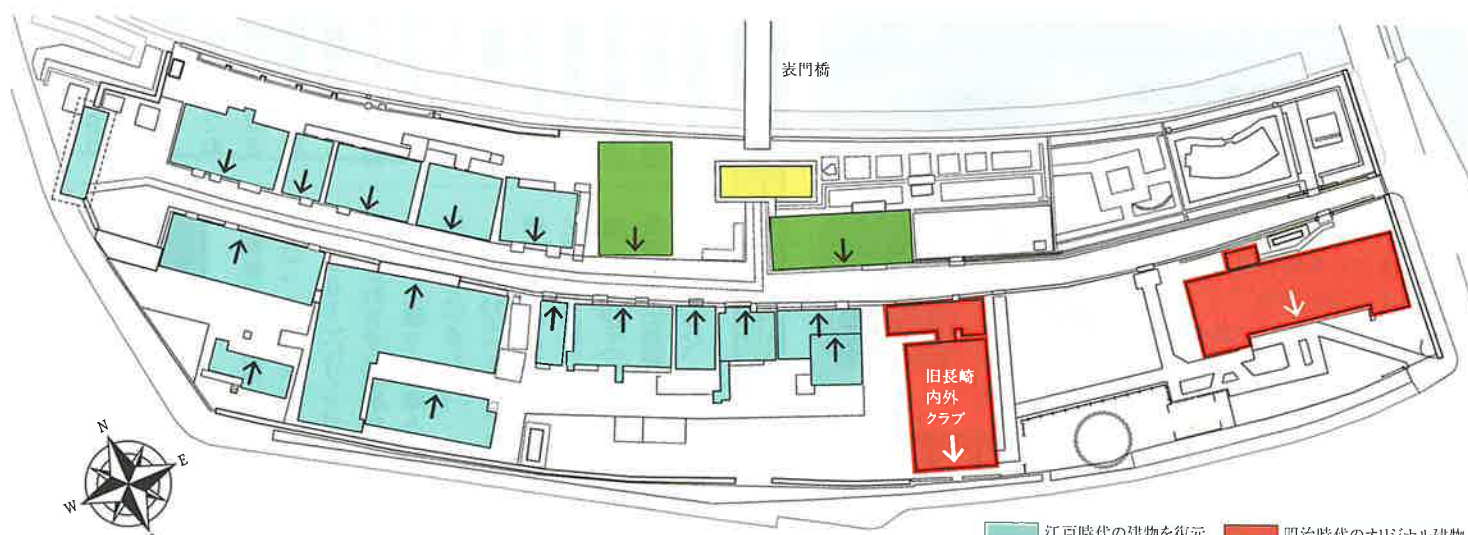
TOPICS

どうして出島の外側を向いているの?

出島場内には現在21棟の建物が並んでいます。

よく見てみると、ほとんどの建物が出島の中央を通る道路を正面にして建っていますが、明治時代から出島に残る旧長崎内外クラブと旧出島神学校は中央道路を背にして、出島の外側を向いて建っていることに気づきます。

出島オランダ商館としての役目を終えた出島は、幕末になると徐々に長崎の町に開かれていきます。明治時代には様々な工事がおこなわれ、島の形がなくなり、周囲の町と陸続きになりました。そのような状況の中で、長崎内外倶楽部は町側を正面に建てられました。出島が町に開かれていた時代を物語る大切な建物です。



江戸時代の建物を復元 明治時代のオリジナル建物
幕末の倉庫を復元 平成2年に整備された表門

インテリア



英国調の家具を展示。
様々な形の照明にも注目です。



ここも注目!

レストラン



地元長崎の食材をふんだんに使った料理を提供。
人気メニューのトルコライスは絶品!

展示室



まちに開かれていく出島や内外倶楽部の歴史について展示



ここも注目!



長崎内外倶楽部会員の名札入れ。
よく見ると同倶楽部の発起、建設に尽力した「倉場富三郎」の名札も



長崎内外倶楽部の旧部材も展示中

現在の旧長崎内外クラブ

建築から121年の歴史を持つ旧長崎内外クラブ、現在は1階をレストラン、2階を展示室として公開しています。